

# CASBEE<sup>®</sup> あいち

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	カワサキロボットサービス株式会社 名古屋事業所新築工事	階数	地上2階、地下0階
建設地	愛知県大府市共和町児子廻間4番3、4番6、4番15	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	150人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,080時間/年
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2027年1月 予定	評価の実施日	2025年11月10日
敷地面積	26,877 m <sup>2</sup>	作成者	平山政雄
建築面積	10,383 m <sup>2</sup>	確認日	2025年11月10日
延床面積	11,436 m <sup>2</sup>	確認者	平山政雄

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.5**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ BEE=1.0

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 82%

③上記+②以外の 82%

④上記+ 82%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.0**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.9

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.8

**LR のスコア = 3.6**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.9

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.7</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>3.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>33.4 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.5</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
カワサキロボットサービス株式会社 名古屋事業所新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>								
<b>Q1 室内環境</b>								
<b>1 音環境</b>								
<b>1.1 室内騒音レベル</b>								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能								
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音								
<b>2 温熱環境</b>								
2.1 室温制御								
1 室温								
2 外皮性能								
3 ゾーン別制御性								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
<b>3 光・視環境</b>								
3.1 昼光利用								
1 昼光率								
2 方位別開口								
3 昼光利用設備								
3.2 グレア対策								
1 昼光制御								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
<b>4 空気質環境</b>								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質								
4.2 換気								
1 換気量								
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮								
4.3 運用管理								
1 CO <sub>2</sub> の監視								
2 喫煙の制御								
<b>Q2 サービス性能</b>								
<b>1 機能性</b>								
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性								
2 高度情報通信設備対応								
3 バリアフリー計画								
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観 (天井高)								
2 リフレッシュスペース								
3 内装計画								
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計								
2 維持管理用機能の確保								
<b>2 耐用性・信頼性</b>								
2.1 耐震・免震・制震・制振								
1 耐震性(建物のこわれにくさ)								
2 免震・制震・制振性能								
2.2 部品・部材の耐用年数								
1 躯体材料の耐用年数								
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔								
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔								
4 空調換気ダクトの更新必要間隔								
5 空調・給排水配管の更新必要間隔								
6 主要設備機器の更新必要間隔								
2.4 信頼性								
1 空調・換気設備								
2 給排水・衛生設備								
3 電気設備								
4 機械・配管支持方法								
5 通信・情報設備								

<b>3 対応性・更新性</b>				0.2	3.7	0.29	-	-	-	3.7
3.1 空間のゆとり				0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり			階高3.9m以上		5.0	0.60	-	-	-	
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率<0.1	3.0	5.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.2	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性			②		3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性					3.0	3.0	0.17	-	-	-
3 電気配線の更新性					3.0	3.0	0.11	-	-	-
4 通信配線の更新性					3.0	5.0	0.11	-	-	-
5 設備機器の更新性				仕上げ材を痛めることなく修繕更新が可能	3.0	3.0	0.22	-	-	-
6 バックアップスペースの確保					3.0	3.0	0.22	-	-	-
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	-	0.38	-	-	-	2.8
1 生物環境の保全と創出			独自③		3.0	0.30	-	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		3.0	0.40	-	-	-	3.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					3.0	0.50	-	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>										3.6
<b>LR1 エネルギー</b>					-	0.40	-	-	-	3.9
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.72	3.0	5.0	0.22	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.12	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.68	3.0	4.2	0.46	-	-	-	4.2
<b>4 効率的運用</b>				0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング				-	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	-	-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>					-	0.30	-	-	-	3.6
<b>1 水資源保護</b>				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水			主要水栓等に加えて省水型機器を過半数以上に採用	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33	-	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>				0.6	3.7	0.63	-	-	-	3.7
2.1 材料使用量の削減			F.T.Pile構法、スーパーEデッキ等を採用		4.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			スタイロフォーム断熱材、再生クラッシュラン	3.0	4.0	0.21	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			躯体と仕上材が容易に分別可能な構造、OAフロアの採用	3.0	5.0	0.25	-	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>				0.2	3.3	0.22	-	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.5	0.68	-	-	-	
1 消火剤					-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			ODP=0、GWP≤50の発泡系断熱材を採用		4.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>					-	0.30	-	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮			① ライフサイクルCO2排出率82%		3.7	0.33	-	-	-	3.7
2 地域環境への配慮				0.3	3.4	0.33	-	-	-	3.4
2.1 大気汚染防止			燃焼機器の採用なし		5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.7	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減			独自		3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			独自		3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制			駐車スペースを確保し、車両出入時の混雑を避けた計画		4.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制					1.0	0.25	-	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>				0.3	2.8	0.33	-	-	-	2.8
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音			独自		3.0	1.00	-	-	-	
2 振動			独自		-	-	-	-	-	
3 悪臭					-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制					3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制					-	-	-	-	-	
3 日照障害の抑制					3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	2.3	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					2.0	0.70	-	-	-	
2 透光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30	-	-	-	

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE:建築(新築)2016年版+あいち版手引き

カワサキロボットサービス株式会社 名古屋事業所新築工事

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.7</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.5</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.2	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.7	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.7	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>3.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.11	外構緑化:33.4%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>		(評価ポイント)		<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 カワサキロボットサービス株式会社 名古屋事業所新築工事

計画上の配慮事項	
総合	・外皮性能を高め、高効率な設備機器の導入により環境負荷の低減を図るとともに、ライフサイクルCO2排出量の低減に努めている。
Q1 室内環境	・ほぼ全面的にF☆☆☆☆の建材を使用し、全館禁煙として室内の良好な空気環境の確保を図っている。
Q2 サービス性能	・耐用年数の長い内装材・外壁材・配管材等を採用し、建物の耐用性の向上に配慮している。
Q3 室外環境(敷地内)	・敷地内緑化により、緑の量の確保に配慮している。
LR1 エネルギー	・高効率な設備機器を採用し、エネルギーの効率的利用に配慮している。
LR2 資源・マテリアル	・OAフロアの採用によって部材の再利用可能性向上を図り、躯体と仕上材の分離を容易にすることで、解体時におけるリサイクルを促進させる対策がある。
LR3 敷地外環境	・燃焼機器の設置をなくし、大気汚染防止に配慮している。
その他	-